

フードドライブ LOOP

～つながる輪～笑顔の輪～

代表者 兼田 樹 (経済学部経済学科2年)

1. 目的と概要

本事業はフードドライブ活動への参加をきっかけとして、地域住民に食品ロス削減やSDGs に対する関心を高めていただくことを目的として実施している活動である。フードドライブ活動とは、家庭で余っている食品や未使用の食品を寄付していただき、それらを福祉団体や支援を必要としている人々へ寄付する取り組みである。地域の人々が身近な形で食品ロス問題について考える機会を提供することを目的として活動を行っている。また、食品を有効活用することで食品ロスの削減につなげるだけでなく、地域の助け合いの輪を広げる役割も果たしている。本活動を通して地域住民との交流を深めながら食品ロス削減やSDGs に対する理解を促進し環境問題や社会問題への意識の向上を図るとともに、地域全体の活性化にもつなげていきたいと考えている。そして、回収した食品を県内の社会福祉協議会などへ寄付することで、生活支援を必要としている方々に少しでも貢献するために実施している。

2. 実施期間 (実施日)

令和7年4月1日から 令和8年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

今年度の活動は、昨年度の活動場所 (多肥コミュニティセンター、牟礼コミュニティセンター、仏生山コミュニティセンター、さぬき市役所、坂出市役所) から拡大し、新たに弦打コミュニティセンター、丸亀市役所、三木町役場を加えた計8か所でフードドライブ活動を行った。また、高松市ゼロカーボンシティ推進課と協力し、10月30日の食品ロス削減の日にあわせ、10月18日～10月24日の期間中、高松市役所1階玄関前にてフードドライブウィークを実施した。この期間中、高松市内に店舗を持つ食品スーパー6社 (イオンリテール (株)、新鮮市場きむら、生活協同組合コープかがわ、(株)イズミ、(株)フジ、(株)マルヨシセンター) と連携したフードドライブも実施した。高松市役所前で行った5日間のフードドライブ活動で約232kg、店舗と連携した7日間のフードドライブ活動では約431kgの食品を寄付することができた。さらに、香川県循環型社会推進課ならびに香川県内に店舗を持つ食品スーパー8社 (イオンリテール (株)、新鮮市場きむら、生活協同組合コープかがわ、(株)イズミ、(株)エースワン、(株)フジ、(株)マルヨシセンター、(株)ミワ商店) と、今年度は新たに香川県オールトヨタ「笑顔の架け橋プロジェ

クト」とも連携し、県内のスーパー約 120 店舗と香川県オールトヨタ 5 社にて、1 月 15 日のフードドライブの日にあわせ、1 月 19 日から 1 月 30 日の期間中、香川県食品ロス削減推進キャンペーン「みんなで目指そう！食ロスゼロ県かがわ県」を実施し、フードドライブ活動を行った。香川県庁前での 5 日間のフードドライブでは約 19 kg、スーパー各社、香川県オールトヨタと連携し行ったフードドライブ活動では約 400 kgの食品が集まり、合計 419 kgの食品を寄付することができた。香川県オールトヨタ「笑顔の架け橋プロジェクト」では 7 月にもフードドライブを実施しており、SteeP はこのプロジェクトのフードドライブ活動において参加・協力をする事で、より広域での活動を行うことができた。その他にも、「なおしま環境フェスタ」といった外部のイベントでもフードドライブ活動を実施した。フードドライブ活動のほかにも、食品ロス問題について知ってもらい、楽しく学んでもらうため、世界の食品ロスの現状や食品ロス削減のための活動などをまとめた「食品ロス学習ノート」を活用した講座を、県内の小学校やコミュニティセンターにて計 3 回行った。作成したノートは主に小学生を対象としており、講座の実施やイベント等での配布を通して、幅広い年齢層へ食品ロス問題に関心を持ってもらうことができた。

以上の活動により、今年度の開催で合計約 1,296 kgの食料品を寄付することができた。また、高松市に限らず、香川県内の他地域でのフードドライブ活動も実施したことで、より多くの県民のみなさまに、フードドライブ活動を知っていただく機会を提供することができた。さらに、年間の実施回数を昨年度の 13 回から 17 回に増やし、連携するスーパーや企業を拡大することができた。これらの取り組みにより、多くのみなさまにフードドライブ活動の意義を広め、食品ロスについて考えていただく機会を提供できたと考えている。

牟礼コミュニティセンター



高松市役所玄関口



牟礼北小学校でのキャンペーン



香川県庁玄関口



食品学習ロスノート



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この活動を通して、フードドライブや環境出前講座を行う中で地域住民とのつながりを深くしたり環境について学ぶ機会を提供したりすることができた。いつも身近にあるスーパーや企業、自治体と連携、協力することで地域住民が日常生活の中で気軽に環境問題や食品ロス削減に関わることが可能になった。フードドライブ等に参加していない方も、フードドライブの啓発チラシやのぼりを目にすることで環境問題に対する意識の向上が見込まれる。各回のフードドライブ活動では、事前に近隣の小・中・高校にご協力いただき、私たちが香川県食品ロス削減推進キャラクター「たるる」とともに学校に赴いてフードドライブ活動の周知を行うことで、児童・生徒を通じてご家庭で食品ロスについて考える機会を創出することができた。

また、これらの活動を広く知ってもらい、より多くの食品を寄付いただくために、開催前にはプレスリリースを通して各メディア機関へ依頼を行い、テレビや新聞、雑誌等でイベントの情報発信をしていただいた。今年度はラジオや西日本放送、四国新聞、ナイスタウンといった多くの媒体にて取り上げていただいたことで、普段食品ロスや環境問題についてあまり関心のない方々にも活動を知ってもらうことができた。さらには、より多くの食品の寄付につながり、香川大学のSDGsに対する姿勢を地域住民の方々に知っていただくこともできたと考える。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この活動を通して改めて自分の環境問題に対する意識を高めることができた。今まで食品ロスの現状や環境問題について学ぶ機会があったが、実際自分から改善のため行動に移すという機会はなかなか無かった。自身で取り組むことによって環境問題のより深い学習へつなげることができた。また、このプロジェクト活動を通して地域の方や様々な企業との連携、協力いただくことの有難さや大切さを学んだ。プロジェクト内だけで

は地域住民に活動を知ってもらうことはできないが、様々な方の支援、ご協力のお陰で本活動を充実させることへとつなげることができた。さらに、普段関わる機会のない方々とコミュニケーションをとることで地域社会との交流を深めることができた。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点としては3点ある。1点目は、フードドライブイベントについての広報が足りない部分があったことだ。今年度は、チラシや広報誌を用いた啓発を行っていた。しかし、それだけでは啓発できる年齢層や場所に偏りが生じることが分かった。次年度は、近隣の小学校や地域住民への広報以外にも各自治体と連携した SNS やメディアを用いた幅広い年代へのアプローチを図る。2点目は、年間予定がずれ込むことがあったことだ。この点に関しては、4月開催に向け、2月中から細かい年間計画案を作成した。スムーズに開催できるよう、マニュアルなどの作成も行う。3点目は、フードドライブで使用する資材が足りないことがあったことだ。これに対しては、SteeP で保有する備品の全体数を細かく把握することで改善を図る。また、壊れているものもあるため、補修や買い替えも行う。

今後の展望として、次年度は、例年と同様に4月よりフードドライブ活動を継続し、食べられることなく捨てられてしまう食品を減らすとともに、より多くの人々に食品ロス問題に関心を持っていただくきっかけを提供したい。

また、次年度からは、現在フードドライブ活動を行っている高松市内のコミュニティセンターや、坂出市役所やさぬき市役所以外の自治体以外にも、綾川町や多度津町といった新規の自治体にてフードドライブ活動を実施し、本事業を拡大したいと考える。これは、より多くの食品を寄付するとともに、地域の皆様へ食品ロス問題に関する啓発活動を広く行うことを目的としている。

さらに、今年度は「食品ロス学習ノート」を活用し、小学生に向けた楽しく、わかりやすい出前講座を行うことができた。また、クイズや、考えて絵を書いてみようを取り入れていくことで子供が積極的に考える機会を設けることもできた。次年度は、この「食品ロス学習ノート」を続けて活用し、多くの子供たちに食品ロス問題へ関心を持ってもらえるような機会を提供していく。

今年度は、香川県食品ロス削減推進キャラクター「たるる」のグッズとしてボールペンを作成した。このグッズはフードドライブ活動にご協力くださった方々へお渡ししており、たるるグッズを日常的に利用していただくことで、食品ロス問題やフードドライブ活動を広めるきっかけになったのではないかと考える。次年度も、グッズを利用した啓発活動を積極的に行いたい。

7. 実施メンバー

代表者	兼田 樹	(経済学部 2年)			
構成員	植村 実央	(経済学部 4年)	池田 就	(法学部 4年)	
	江口 侑輝	(経済学部 4年)	白石 歩美	(経済学部 4年)	
	傳谷 未来	(経済学部 4年)	渡邊 秋斗	(法学部 3年)	
	磯尾 真理子	(法学部 3年)	臼井 穂乃歌	(法学部 3年)	
	定雪 遼冴	(法学部 3年)	白石 和	(法学部 3年)	
	妹尾 萌花	(経済学部 3年)	中条 優香	(経済学部 3年)	
	友寄 隼楓	(経済学部 3年)	逸見 茉央	(経済学部 3年)	
	姫野 優作	(経済学部 3年)	平塚 凜	(経済学部 3年)	
	森本 美咲	(経済学部 3年)	福家 朋佳	(経済学部 3年)	
	宮本 朝日	(農学部 3年)	六車 謙伸	(農学部 3年)	
	中藤 綾音	(法学部 3年)	竹岡 海晴	(法学部 3年)	
	兼田 樹	(経済学部 2年)	尾関 夏帆	(法学部 2年)	
	中野 雅子	(経済学部 2年)	出口 奈月紀	(農学部 2年)	
	道川 知学	(経済学部 2年)	山本 彩月	(経済学部 2年)	
	山本 千尋	(経済学部 2年)	角ヶ谷 明義	(法学部 2年)	
	里石 楓花	(農学部 2年)	重本 由弦	(農学部 2年)	
	玉木 蓮華	(農学部 2年)	入道 和俊	(農学部 1年)	
	首尾木 琴花	(経済学部 1年)	谷口 うた	(経済学部 1年)	
	白峰 菜々美	(経済学部 1年)	福田 綾花	(経済学部 1年)	
	細川 なのは	(経済学部 1年)	堂崎 莉愛	(経済学部 1年)	
原田 好美	(教育学部 1年)	千田 淑乃	(農学部 1年)		

8. 執行経費内訳書

配分予算額		300,000円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備考
チラシ（5月分）	3,000	2.9	8,700	
チラシ（6月分）	3,000	3.1	9,360	
チラシ（9月分）	2,000	5.4	10,890	
チラシ（10月分）	2,000	2.5	5,110	
チラシ（11月分①）	3,000	2.5	7,650	
チラシ（11月分②）	3,000	2.5	7,650	
チラシ（1月分①）	2,000	3.0	6,090	
チラシ（1月分②）	3,000	2.9	8,700	
たるるグッズ（ボールペン）	2,000	76	165,000	
封筒	100	11	1,100	
ラミネーター	1	6,720	6,720	
旅費（10/19 仏生山コミュニティセンター）	2	670	1,340	
旅費（10/24 仏生山コミュニティセンター）	3	540	1,620	
旅費（11/15 多肥コミュニティセンター）	2	540	1,080	
旅費（11/17 仏生山コミュニティセンター）	3	720	2,160	
合 計			243,170	